

日本画/書

(1) 江戸時代伊予国諸藩の絵師たちとその周辺

愛媛は昔は伊予国と呼ばれ、江戸時代には久松(松平)家の松山藩、今治藩、松平家(紀州徳川家御連枝)の西条藩、一柳家の小松藩、加藤家の大洲藩、新谷藩、伊達家の宇和島藩、伊予吉田藩、そして幕府直轄領の川之江に分けられてそれぞれに文化を育みました。絵画史の面では諸藩それぞれに絵師たちの活躍が見られ、特に大藩の松山藩久松家では、徳川將軍家の奥絵師制度に倣い、江戸時代を通じて御用絵師が雇用されました。

当館では、松山藩の松本山雪(?-1676)、松本山月(1650-1730)、豊田随園(?-1732)、武井周堯(1694-1770)、豊田随可(1721-1792)、遠藤広古(1748-1824)、遠藤広実(1784-1862)の作品を収蔵しています。大洲藩の絵師としては若宮養徳(?-1834)の作品がありますが、この藩の場合、絵師よりも殿様の方が絵の名人として有名です。特に有名なのは第三代藩主の加藤泰恒(1657-1715)と、その子、加藤文麗(1707-1782)です。宇和島藩の大内蘚圃(1764?-1842)、西条藩の小林西台(1794-1854)もそれぞれの藩で絵師をつとめました。市井の画家として活躍した人々として、今治藩の山本雲溪(1780-1861)、今治から京や江戸へ出た冲冠岳(1817-1876)がいました。松山藩では、藩士でありながら余技に墨竹をよくした吉田蔵澤(1722-1802)や、書画をよくした禅僧である物外和尚(1794?-1867)が知られます。

また、伊予諸藩とは直接関係がなくとも、近世絵画史上の重要な人物として土佐光起(1617-1691)や冷泉(岡田)為恭(1823-64)の作品も収蔵しています。



松本山雪《製茶風俗図屏風》 紙本墨画淡彩/六曲屏風一双 各 161.0×360.0 cm



吉田蔵澤《風竹》
紙本墨画/掛軸
133.0×54.5 cm



冲冠岳《百狸々図》
絹本着色/掛軸
130.1×50.7 cm



大内蘚圃《群猿百態図》
1841(天保12)年
紙本墨画淡彩/掛軸

(2) 近代日本画と文人画

明治以降の、愛媛出身の日本画家たちの中で今日最も有名なのは、大智勝観(1882-1858/今治出身)と矢野橋村(1890-1965/今治出身)でしょう。勝観は東京で日本美術院を拠点に活躍し、橋村は大阪で文学者や実業家とも交わりながら江戸時代以来の南画・文人画を継承しました。両名は近代日本画界における中心と周縁を表

しているとも言えます。当館では、勝観や橋村のような愛媛出身の画家たちを柱に、日本画コレクションを形成しています。

勝観の活動拠点だった日本美術院(院展)の画家たちとしては、狩野芳崖(1828-1888)、横山大観(1868-1958)、菱田春草(1874-1911)、梶田半古(1870-1917)、木村武山(1876-1942)、安田靉彦(1884-1978)、小林古径(1883-1957)、前田青邨(1885-1977)、川端龍子(1885-1966)、富田溪仙(1879-1936)、速水御舟(1894-1935)、岩橋英遠(1903-1999)、平山郁夫(1930-2009)等の作品を収蔵しています。また、日本美術院とは別に、平山郁夫と同時期に東京で活動した東山魁夷(1908-1999)、杉山寧(1909-1993)等の作品も収蔵しています。

対するに、橋村と同じく南画、文人画を描いた人々としては、幕末の天野方壺(1828-1894/松山出身)、三好藍石(1838-1923/四国中央出身)、野田青石(1860-1930/八幡浜出身)、明治期以降では、富岡鉄斎(1836-1924/夫人が大洲出身)、平福百穂(1877-1933)、松林桂月(1876-1963)、矢野鉄山(1894-1975/今治出身)、下村為山(1865-1949/松山出身)等の作品を収蔵しています。

明治期以降、多くの画家たちは東京で活動しましたが、橋村や鉄山は大阪で活動しました。伊藤溪水(1879-1967/宇和島出身)も同じく大阪で活動した画家です。しかし大阪画壇をはるかにしのぐ一大勢力を誇ったのは京都画壇です。愛媛からも、長谷川竹友(1885-1962/東温出身)や武田耕雪(1889-1973/西条出身)、川上拙以(1901-1976/新居浜出身)、榎崎洙雀(1895-1969/宇和島出身)、高畠華宵(1888-1966/宇和島出身)、黒光茂樹(1909-1933/西条出身)等が京都へ出て絵を学びました。京都の日本画家としては、塩川文麟(1801-1877)、鈴木松年(1848-1918)、竹内栖鳳(1864-1942)、都路華香(1870-1931)、山元春挙(1871-1933)、土田麦僊(1887-1936)、村上華岳(1888-1939)、池田遙邨(1895-1988)等の作品を収蔵しています。

なお、当館には、現在活動中の日本画家の作品も収蔵されています。主なものとして、伊東正次(1962- /久万高原町出身)、岩波昭彦(1966-)、福井江太郎(1969-)それぞれの代表作があります。



横山大観《曳舟》
1905(明治38)年
絹本着色/掛軸
118.7×50.2 cm



竹内栖鳳《花の山》
1905(明治38)年頃
絹本着色/掛軸
150.5×71.0 cm



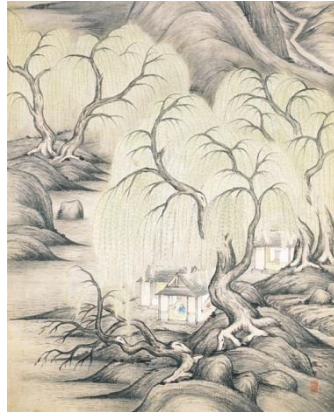
平福百穂《踏の臺・かけ稲》
1924(大正13)年
絹本着色/掛軸双幅
各 148.5×50.0 cm



山元春挙《春の海》 1928(昭和3)年 絹本着色/六曲屏風一双 各 162.5×257.2 cm



大智勝観《樹林》
絹本着色/掛軸
94.6×81.2



矢野橋村《柳蔭書堂》
1919(大正8)年
紙本墨画淡彩/掛軸
117.0×93.3 cm



長谷川竹友《印度パンジャブの里》
1919(大正8)年
絹本着色/掛軸
150.7×50.5 cm

(3) 僧や学者、武人、文士等の書と書家の書

書画という言葉もあるように、もともと絵画と書には密接な関係がありました。特に富岡鉄斎の作品は絵画としても書としても高く評価されています。当館には、江戸時代から現代まで様々な書の作品がありますが、大きく分ければ、江戸時代から明治初期までの僧や学者、武士等の書、近代以降の文士や政治家等の書、そして展覧会芸術家としての書家の書に分類できます。

江戸時代から明治初期までの僧や学者、武士等の書としては、中江藤樹(1608-1648)、南明東湖(1616-1684)、伊藤子礼(1685-1761/松山藩出身)、明月曇寧(1727-1797)、蔵山貴謙(1715-1788/松山藩出身)、尾藤二洲(1747-1813/川之江出身)、近藤篤山(1766-1846/西条藩出身)、日下伯巖(1785-1866/松山藩出身)、伊達春山(1792-1889/宇和島藩主)、三輪田米山(1821-1908/松山出身)等があります。近代以降の文士や政治家等の書としては、正岡子規(1867-1902/松山出身)、高濱虚子(1874-1959/松山出身)、河東碧梧桐(1873-1938/松山出身)、柳原極堂(1867-1957/松山出身)、夏目漱石(1867-1916)、秋山好古(1859-1930/松山出身)、安倍能成(1883-1966/松山出身)等。書家の書としては、村上三島(1912-2005/今治出身)、松本芳翠(1893-1971/今治出身)、西川寧(1902-1989)等が収蔵されています。



三輪田米山《福祿寿》
1897(明治30)年 紙本墨書/掛軸三幅対 各 166.5×89.4 cm